



# 一 歩 一 歩 号外 1

平成28年 7 月 13 日（水）発行

校長 深谷 浩一

## 野球応援，ありがとうございます！

### ～八回裏，2アウトから執念の同点劇～

先週 9 日（土）に実施された本校の野球応援について，応援していただいた方々に対して，一言お礼申し上げます。

当日は，雨模様の天気で開催が危ぶまれましたが，予定通り笠間市民球場で佐竹高校を相手に 1 回戦が行われました。ホームページの「校長室だより」で応援を呼びかけていたこともあり，球場にはたくさんの卒業生や地域の方々にお出でいただきました。ホームページでお約束していた帽子と

うちわについても，PTA 副会長の堀氏にお手伝いいただいたので，混乱なく配付することができました。また，球場には，明野中学校の斎藤校長先生と木村教頭先生（本校の渡邊監督の中学校時代の恩師でもあります。）も応援に駆けつけていただきました。さらに，昨年まで明野中学校の校長先生であった小島校長先生にもおいでいただき，明野中学校出身の 5 人の選手たちに声援を送っていただきました。心から感謝申し上げます。

○

○

○

さて，この試合の内容について振り返ってみましょう。

本校は後攻でしたが，一回表から失点する苦しい立ち上がりでした。一，二回と 1 点ずつ加点され，ずるずると引き離されるのではないかと心配しましたが，二回裏に一举に 2 点を返して同点とし，試合を振り出しに戻しました。ところが安心したのもつかの間，五回表に 1 点失点し，2－3 と 1 点ビハインド。しかし，嫌な空気を断ち切ってくれたのが，みごとに六回裏の攻撃でした。

先頭打者のピッチャー斉藤 陸君（3 年）がレフト前ヒットで出塁すると，四番大塚寿希也君（1 年）がライト前のクリーンヒットで一，三塁としました。続く島田淳平君（3 年）がセンターへの大きなフライ。これが犠牲フライとなり，同点としました。次の打者のキャプテン幸田睦生君（3 年）はセンター前ヒットでまた一，三塁として，さらにチャンスを広げました。さらに続く塚田祐野君（1 年）がライト前のあたりで 1 点追加。続く大塚裕哉君はサードゴロでしたが，アウトになる間に三塁走者が返りこの回 3 点目が入ったのです。

七回は両チームとも無得点でしたが，八回に試合が大きく動きました。5－3 とリードし



佐竹・明野 8 回表佐竹無死一・二塁ピンチを迎えた明野の先発斎藤 中央を励ますナイン 笠間市民 菊地克仁撮影

平成28年7月10日付け茨城新聞の記事から転載

ていた本校でしたが、制球が定まらない斉藤君はいきなり2つのフォアボールを出し、送りバント、犠牲フライ、またフォアボールなどで満塁になると、レフトオーバーの二塁打を浴び走者一掃の3失点を喫しました。続く打者にもライト前ヒットを浴び、結局この回5失点。

私は正直「これで終わりか。」と思いました。八回まできての3点差はとても重く感じました。ところが、な、なんとこの裏に本校の見事な反撃が待っていたのです。

先頭打者の島田君は三振。続く打者の幸田君はフォアボールを選んだものの、牽制球で刺されてあえなく2アウト。ここで「万事休す」と思いきや、ここから「奇跡」が始まります。塚田君がセカンドのエラーで出塁すると続く大塚裕哉君がレフト前ヒット。さらに中村君がセンター前にはじき返してあっという間に満塁としました。

トップバッターの黒川君に打順が戻ると、ボールをよく見てフォアボールを選び、まず押し出しの1点、なおも2アウト満塁。そこで二番の寺田君がヒットで二者を返して同点に追いついたのです。八回が終わってみれば、8対8の同点になっていました。「2アウトランナーなし」からの3得点です。これを奇跡と言わずして何と言ったらいいのでしょうか。

私はこの「一步一步」の第16号で、生徒の「開校三年目の奇跡」の感想に触れて、「新たな奇跡がすでに始まっているかもしれませんよ。」と書きましたが、本当に奇跡が起こっているのではないかと感じました。

八回のこの場面で、「3点を返してさらに満塁だったのだから、もう1点勝ち越していれば勝てたかも知れない。」などと言う人がいるかも知れませんが、私はこう考えています。「少ない人数で日頃一生懸命練習してきた本校の生徒たちを見てきた『グラウンドの神様』が、そのご褒美に3点もくれたのではないかと。」と。

私が書いた「一步一步」を見て球場を訪れてくれた卒業生がいました。彼は、帰りがけに、「今日は良い試合を見せてもらって感謝しています。また、来年も後輩の試合を見にきます。」と言ってくれました。今日の試合は観戦している人に力を与えてくれるような試合でした。私もこんなすばらしい試合を見せてくれた選手たちに感謝しています。

最後に、今の私の気持ちを一編の詩で表現してみましたので、紹介します。37年前に作詞家の阿久悠氏が本校に捧げてくれた詩（第11号で紹介。）のようなわけにはいきませんが、読んでいただけたら幸いです。

### グラウンドの神様

グラウンドには神様がいて  
練習で少しでも手を抜くと  
完封負けという試練を与えられる  
うまくなったとうぬぼれると  
逆転負けの悔しさを味わわされる  
でも

必死になってボールを追いかけていると  
グラウンドの神様が微笑むときがある  
八回裏の3点は  
神様がくれたご褒美だ

「ここまでの粘りはあっぱれだ。でもまだまだだぞ。」

神様がちょっとだけ微笑んだのだ

※ 「中田厚仁さんのこと」の連載の途中ですが、「号外」として掲載させていただきました。



平成28年7月10日付け茨城新聞より



-21-

## ピンチ ↓チャンス↑

### 救援1年生に 先輩の励まし

「落ち着いているつもりだったが、足が地につかなくて……」。明野の1年生投手進藤昂汰は振り返った。九回無死、3年生エース斉藤陸が四球を与えた後にマウンドへ。2死を取ったが、その後は制球が定まらず、3連続四死球を与え、長短3連打を浴びた。雨中、力投をみせていた斉藤は握力が弱まり、制球が定まらなくなっていた。進藤は「九回を無失点で切り抜けてサヨナラ勝ちを」との思いで登板した。強気に内角を突いたが死球とな

り、甘い変化球を痛打された。主将で三塁手幸田睦生や捕手島田淳平ら3年生が、小柄な進藤の肩を抱いて励まし続けた。

渡辺健太監督は「進藤には酷な交代だったが、よく2死を取った」。進藤は「3年生に恩返しができなかった。来年は勝ち進んで甲子園を目指します」と涙を拭いた。  
(吉江宣幸)



明野の進藤昂汰＝笠間市民

平成28年7月10日付け朝日新聞より

### 明野 松崎 ちかさん 17



### 幼なじみ 最後の夏

smile  
スマイル



夏の高校野球をみんな  
で応援するのは、明野の  
伝統です。中でも希望者  
はそろいのシャツを着て  
ダンスをしたり、さらに  
先生に選ばれると前列で  
応援できたりします。

サードの幸田睦生選手  
と10番の多田伶史選手は、幼稚  
園からずっと一緒に、今もクラ  
スメイト。3年で今年は最後の  
ので、希望して応援に加わりま  
した。雨が降っていたけど、必  
死で気になりませんでした。  
負けてしまいました。何て声  
をかけよう。「本当にお疲れさ  
ま」かな。でも、もう少し2人  
が頑張っている姿を応援したか  
ったな。

平成28年7月10日付け読売新聞より

※ このページについては、ホームページ版のみに掲載します。